

5 電気機器を安全に使用しよう

1. 電気による事故を防ぐ方法

機器の故障、配線不良や（ショート（短絡））などが原因で定められた電流より大きな電流が流れると、火災や（感電）の原因になることがあります。

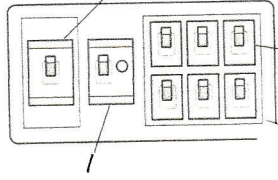
これを未然に防ぐために（ブレーカ）があり、自動的に回路を遮断して事故を防いでいます。

電圧の異なる2つの電線が接触したり、大きすぎる電流が電線に流れること。

作動するブレーカは原因によりちがうので、

その（復旧）方法もそれぞれあります。

分電盤 電流制限器…… 契約した電流を超えると作動する。（付けるかは、電力会社による。）



（配線用遮断器）

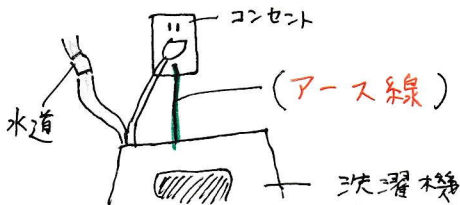
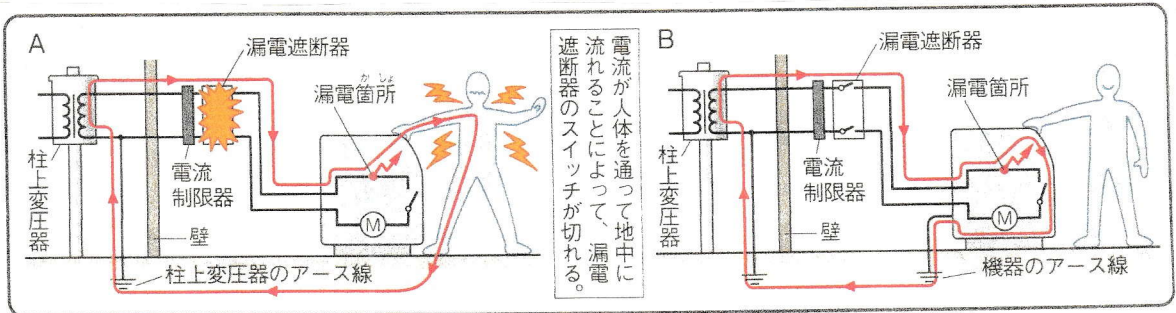
負荷に限度を超えた電流が流れると作動する。

機器や配線コードなどの絶縁物が古くなったり、傷が付いたり、ほこりや水が付いたりすると、回路

（漏電遮断器）

以外に電流が流れることがあります。これを（漏電）といい、その状態で人が機器に触れると、電流が人体を通過して地中に流れ、（感電）することがあります。

（アース線）を接続すれば、（漏電遮断器）の働きによって、漏電による（感電）や火災を防ぐことができます。



洗濯機などを設置する場所には、電気設備に関する技術基準により、（アース付コンセント）を施設することが義務づけられている。